

千葉大学医学部附属病院産科で羊水塞栓症と診断され 治療を受けた患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026年2月10日

産科・婦人科

産科・婦人科では、羊水塞栓症と診断され当院で治療を受けた症例に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2011年1月1日から2025年12月31日までに、当院で羊水塞栓症の診断で治療を受けた方

1. 研究課題名

「当院で15年間に経験した羊水塞栓症の検討」

2. 研究期間

2026年承認日～2027年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

羊水塞栓症は、発症頻度が低い稀な疾患ですが、突然の心肺停止や急速に進行する血液凝固機能の増悪のために母体死亡率が高い疾患であり、迅速な診断と各分野の専門医師による治療が必要な疾患です。近年は、分娩後の大量出血をきたす子宮型羊水塞栓症が周知されてきたことで早期発見・治療が可能であった症例が増えてきました。少量の輸血療法で回復する軽症な症例から、大量輸血や侵襲的な治療を要する重症な症例まで経験してきましたが、その重症度を発症した段階で早期に予測する指標は世界的にも明らかではありません。この研究では、当院で経験した症例から、各症例の特徴を分析し

重症度に関連する因子を明らかにすることを目的としています。具体的には、上記で示した対象者の診療録から妊娠や分娩に関する情報を抽出し、特に出血量や輸血量との相関関係を統計学的に解析します。この研究により、今後の羊水塞栓症の症例において、重症度に応じた適切かつ迅速な診断と治療が可能になると考えています。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、妊娠出産歴、既往歴、妊娠中の合併症、超音波や画像検査の所見、分娩週数、使用した医療器具、分娩時の出血量、輸血量、出生児の体重や合併症

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：産科・婦人科 助教 尾本暁子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院 産科・婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、研究結果について当該機関の研究者等の判断の下、原則、研究対象者に開示します。また、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

産科・婦人科 医員 向山文貴

助教 尾本暁子

043（222）7171 内線5314